

令和8年度全国学力・学習状況調査の傾向と対策

加古川市立別府中学校

実施日時：4月23日

対 象：中学3年生

■ 国語・数学・英語における本校生徒の傾向

国語・数学・英語ともに、選択式や短答式の基礎問題（漢字の読み書きや基本的な読解、「数と式」の領域やグラフの読み取り、リスニングやリーディングの基本など）では一定の正答率を示している。

一方、全国的な傾向と同様、意見の記述や根拠を示した説明、長文の英文作成など、記述式で思考力・表現力を問う問題になると正答率が低下し、無解答率が上昇する傾向が見られる。

■ 生徒質問用紙にみる本校生徒の傾向

〈子どもたちの良い面〉

- 「学校に行くのが楽しい」「友達関係に満足している」と答えた生徒の割合が全国平均を上回っており、「自分には良いところがある」と感じている生徒も多い。
- 困っている人を助ける気持ちや、いじめを許さない意識が全国平均より高い。「人の役に立つ人間になりたい」という生徒も多く、思いやりの心や規範意識が育っている。
- 昨年度よりも「ICT デバイス（クロムブック等）を活用している」割合が増え、文書作成や情報収集のスキルに自信が持てるようになっている。

〈今後の課題〉

- 基礎学力の定着には一定の成果が見られるが、思考力・表現力を高めるために「自分の考えを、プロセスや根拠を示してアウトプットする活動」の充実が求められる。
- 家庭でのスマホやパソコンを使った SNS・動画の視聴時間が全国平均を上回る一方で、家庭学習の時間や読書時間が少なくなっている。

■ 学校の対応方針

① 主体的で探究的な学びの充実

教科の授業だけでなく、総合的な学習の時間や学級活動・行事への取組などにおいて、「自ら考え、それを互いに伝え合う活動」を重視し、主体的に課題を解決しようとする姿勢を育む。

② ICT 活用の深化

ICT デバイス（クロムブック等）を文書作成や情報収集に使うだけでなく、生徒間の意見交換や情報の整理・分析等の「思考ツール」として活用し、深い学びにつなげていく。加えて、AI 活用の試行を進める。

③ 自律した生活づくり

生徒会を中心に「スマホルール」を作っているが、引き続き、学校生活や家庭生活で何を大切にするのかを生徒自身が考え、みんなで取り組んでいこうとする自律的な雰囲気を作っていく。

